令和３年　１１ 月 １１ 日

令和３年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和３年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和3年5月27日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　２０人

②　算数　　２０人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

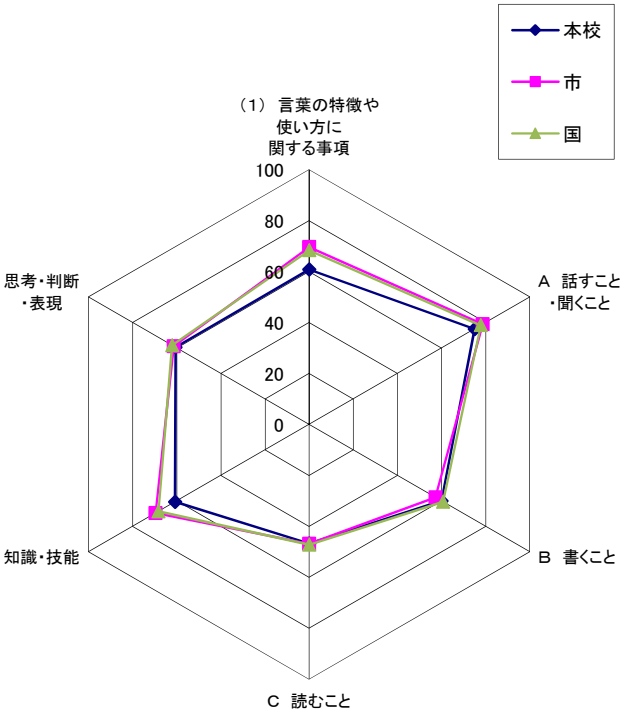
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.8	69.6	68.3
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.0	78.7	77.8
	B 書くこと	60.0	57.3	60.7
	C 読むこと	46.7	46.9	47.2
観点	知識・技能	60.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	60.6	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

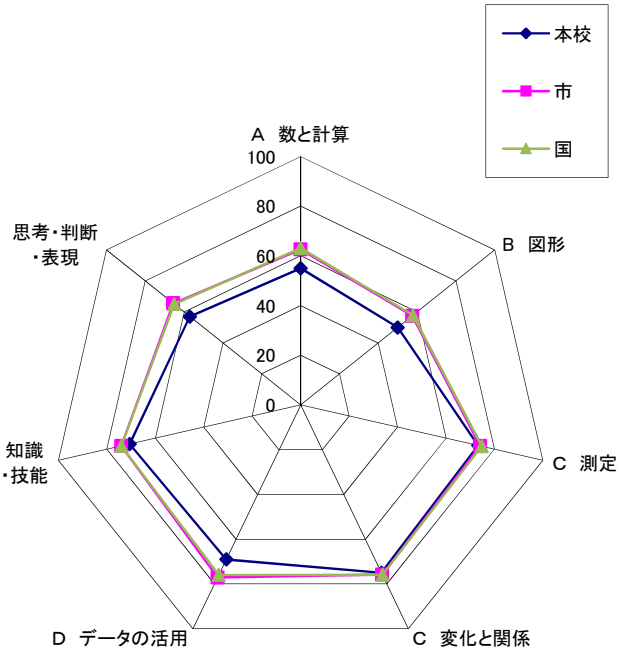
分類・区分	本年度の状況+D23:I27	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，全国平均を下回っている。 ○ 漢字の書き取りの問題については，県や国の平均とほぼ同じ正答率である。日々，漢字練習をしてきた成果だと考えられる。 ● 主語と述語の関係や，修飾語と被修飾語の理解に課題が見られる。	・自分が書いた文章を読み返す際に，読み手の立場に立って，言葉の使い方を確認する習慣が身に付くよう，意識的に声を掛けていくなど，指導の充実を図る。 ・日常の学習指導において，主語と述語の関係や修飾語の役割について随時繰り返し指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国平均を下回っている。 ○ 目的や意図に応じた資料を使って話すことができるかを問う問題では，正答率が90．0%と，全国平均を9ポイント上回っている。話したり，文章を書いたりするときに，効果的な資料の使用について考えてきた成果だと考えられる。 ● 目的に応じ，話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では，正答率が60．0%と，全国平均を17．5ポイント下回るなど，課題が見られる。	・スピーチをするときに，スピーチ原稿を読むのではなく，構成メモだけを見ながら話したり，友達と構成メモを読み合って内容が明確になっているかを確認したりするなど，指導の充実を図る。 ・「いつ」「誰が」「どこで」「どうした」等を常に意識させ，目的に応じた話の内容を考えさせる。
B 書くこと	平均正答率は，全国平均とほぼ同じである。 ○ 自分の主張が明確に伝わるように，文章全体の構成や展開を考える問題では，正答率が65．0%と，全国平均を0．2ポイント上回っている。説明文の構成を考える活動を繰り返してきた成果だと考えられる。 ● 目的や意図に応じて，理由を明確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題では，正答率が55．0%と，全国平均を1．6ポイント下回るなど，課題が見られる。	・自分の考えとそれを支える理由や事例の関係性が明確になっているか，事例は客観的な事実に裏付けられているかなどを確かめて，自分の考えを深めることができるような力を育てていく。
C 読むこと	平均正答率は，全国平均とほぼ同じである。 ○ 文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握することができるかを問う問題では，正答率が85．0%と，全国平均を7．4ポイント上回っている。説明文の内容を確実に読み取ったり，要約したりする活動を繰り返してきた成果だと考えられる。 ● 目的に応じ，文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかを問う問題では，正答率が30．0%と，全国平均を4．4ポイント下回るなど，課題が見られる。	・図表やグラフなどを含む文章を読む際には，必要な情報を結び付けて内容を理解することができるように指導する。文章中に用いられている図表が文章のどの部分と結び付くのか明らかにし，その関係をとらえて読む力を育てていく。

宇都宮市立上河内東小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	55.0	62.6	63.1
	B　図形	50.0	57.5	57.9
	C　測定	73.3	74.1	74.8
	C　変化と関係	75.0	75.8	75.9
	D　データの活用	69.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	70.6	74.1	74.1
	思考・判断・表現	57.1	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，全国平均を下回っている。 ○　小数を用いた倍についての説明を解釈し，ほかの数値の場合に適用して，基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できるかを問う問題では，正答率が60．0%と，全国平均を8．5ポイント上回っている。倍について言葉で説明する機会を多く設定した成果だと考えられる。 ●　二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び，その求め方と答えを記述できるかを問う問題では，正答率が50．0%と，全国平均を11．9ポイント下回るなど，筋道を立てて説明することに課題が見られる。	・授業で自分の意見を発表する際，考えを図式化させたり，出てきた意見を具体的に表して必要な情報が入っているかを全体で考えたりすることを通して，様々な問題場面にも対応できる力を育てていく。
B　図形	平均正答率は，全国平均を下回っている。 ○　複数の図形を組み合わせた図形の面積について，量の保存性や量の加法性を基に捉え，比べることができるかを問う問題では，正答率が75．0%と，全国平均を2．5ポイント上回っている。具体物を操作しながら理解する機会を設けてきた取り組みの成果だと考えられる。 ●　複数の図形を組み合わせた平行四辺形について，図形を構成する要素などに着目し，面積の求め方と答えを記述できるかを問う問題では，正答率が25．0%と，全国平均を21ポイント下回るなど，条件を正しく把握することに課題が見られる。	・体積を求めることはできていることから，問題文を正しく理解し，条件に合った解答をすることを日頃から指導し，習慣化させていく。
C　測定	平均正答率は，全国平均をやや下回っている。 ○　条件に合う時刻を求めることができるかを問う問題では，正答率が95．0%と，全国平均を5．8ポイント上回っている。日頃から時間を意識させて生活してきた成果だと考えられる。 ●　二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び，その求め方と答えを記述できるかを問う問題では，正答率が50．0%と，全国平均を11．9ポイント下回るなど，筋道を立てて説明することに課題が見られる。	・授業で自分の意見を発表する際，考えを図式化させたり，出てきた意見を具体的に表して必要な情報が入っているかを全体で考えたりすることを通して，様々な問題場面にも対応できる力を育てていく。

C　変化と関係	平均正答率は，全国平均とほぼ同じである。 ○　速さと道のりを基に，時間を求める式を表すことができるかを問う問題では，正答率が100%であった。基礎的な問題を繰り返し解いてきた成果だと考えられる。 ●　速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題では，正答率が45．0%と，全国平均を10．8ポイント下回るなど，式の意味の理解に課題が見られる。	・グループ学習など学び合い活動を重視し，多様な考えに触れながら学習を進めていけるようにする。
D　データの活用	平均正答率は，全国平均を下回っている。 ○　棒グラフから，数量を読み取ることができるかを問う問題の正答率は95．0%であった。他教科でもグラフの読み取りについて意識的に学習してきた成果だと考えられる。 ●　棒グラフから，項目間の関係を読み取ることができるかを問う問題では，正答率が80．0%と，全国平均を10．7ポイント下回るなど，問題文の読み取りに課題が見られる。	・単純な計算問題だけではなく，問題文を正しく読んだり，理解しなければ解けない問題に取り組む機会を多く設けたりすることで，問題文に対しての意識を日頃から高めていく。 ・他教科とも関連を図りながら，作図する機会を増やし，データ活用力の伸長を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「友達と協力するのは楽しい」と回答した児童が100%であった。日頃の学校生活や学級活動において，良好な人間関係を築けていることの成果だと考えられる。今後も，児童同士が協力し合えるような活動を学校全体として仕組んでいきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童は80．0%であった。本地域の行事が活発に行われており，児童もそれを楽しみにしていることがうかがえる。新型コロナウイルス感染症対策により多くの行事が中止となっているが，本地域の良さが引き継がれていくよう，学校としても発信していきたい。

○「5年生までに受けた授業で，コンピュータなどのICT機器を週に一回以上使用した」と回答した児童の割合は70．0%であり，全国平均を29．9ポイント上回っている。学校としてICTを積極的に使用してきた成果が表れているため，今後も継続して取り組んでいくとともに，ICTの効果的な使用についてもさらに考えていきたい。

○「友達と話し合う時，友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童が100%であった。基本的な学習習慣の一つである「話をきちんと聞く」ことの指導を繰り返ししてきた成果が表れている。

○「英語の勉強が好き」と回答した児童の割合は85．0%であり，全国平均を16．7ポイント上回っている。外国語指導助手と連携しながら，児童の実態に応じた指導をしてきたことの成果だと考えられる。

●「平日，一日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と回答した児童の割合は55%であった。また，15%の児童は4時間以上と回答している。学級活動や保健体育の授業等で，基本的な生活習慣を正すことの大切さについて指導したり，家庭と連携を図ったりすることで改善していきたい。

●「休日に，一日当たりの勉強時間が1時間未満だ」と回答した児童の割合は55%であり，全国の平均を15．9ポイント上回っている。家庭学習の大切さを児童や家庭に伝えるとともに，よい取り組みをしている児童を紹介するなどして，家庭学習を習慣化させていきたい。

●「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して「そうだ」と回答した児童の割合は75%であり，全国の平均を10．9ポイント下回っているが，「互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した児童の割合は90%と高い。徐々に他人を受け入れる素地は高まっているので，今後も縦割り班活動や道徳の授業を通して心の教育の涵養を図っていく。

宇都宮市立上河内東小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	学校全体で，めあて・まとめ・振り返りの板書を揃え，ノートに書く指導をしている。	「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は100%，「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童90%と，どちらも全国の割合を上回っているが，基礎的な知識，技能の定着はもう一歩である。主体的な学習態度は向上してきた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の目的や意図に応じて，理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書くことの正答率が，全国の正答率を下回っていた。	問題や資料から読み取ったことを正確に表記したり，伝えたりする活動の充実	日常の学習において5W1Hを意識させる発問をしたり，対話を通してデータ等を正確に読み取り活用したりする学習を心掛ける。